

伯耆町総合教育会議 会議録(この会議録は発言を要約したものである。)

召 集 年 月 日	平成 27 年 11 月 20 日 (金)		
召 集 場 所	伯耆町役場 応接室		
開 会 時 間	午後 3 時 00 分		
出席者	町長:森安保 教育委員長:伊藤浩 教育委員:仲倉玄雄・田中榮美子 ※大木寿之委員は欠席 教育長:後藤弥		
事務局等 出席職員	総務課:斉下課長、武内主任 教育委員会事務局:松原教育次長	会議録作成 職 員	総務課主任 武内 和人
提 出 議 案 等	1 開会 2 議題 (1)伯耆町教育委員会の平成 27 年度重点施策の進捗状況と今後の方向性について (2)町長部局と教育委員会部局との連携事業の今後の方向性について 3 その他 4 閉会		
閉 会 時 間	午後 4 時 05 分		

会 議 の 顛 末

斉下課長	議題 1「伯耆町教育委員会の平成 27 年度重点施策の進捗状況と今後の方向性について」の説明をお願いします。
後藤教育長	【学校教育】 ・進捗状況や来年度に向けた重点施策などについて、議題 1 と議題 2 を併せて説明をさせていただきます。

後藤教育長	< 1. 家庭PTAと連携した～> ・確かな学力や家庭学習の定着を目指した施策 ・各学校で研究会を開催しているが、学力向上につながらないのが大きな課題 ・手引きを十分に活用できていない→よりわかりやすい物に改善する（9年間分1冊を3分割し読みやすい物に） ・町PTA協議会とよく話し合い、点検やPRなどを進めていかなければと考えている。 < 2. 地域全体で子どもを育み、～> ・全学校をコミュニティスクールにしていく計画 ・岸本小学校は今春からコミュニティスクールを開始し、岸本中学校・二部小学校は来春から研究に取り組むこととしている。 < 3. 一貫した理念に基づく保育所～> ・小中一貫教育としてカリキュラムを作成したり、保育所との関係を密にするための就学支援検討会を開催したりしている。 ・本町において小中一体型の施設を作るのは無理があるため、1中学校2小学校という形での一貫教育を進めていかなければならない。 ・より小さい時期から保育所と小学校とが連携をし、課題のある子どもへの支援をしていけるような検討会を開催することが必要。 < 4. 確かな学力と規範意識の向上～> ・夏休み中の学力補充や標準学力テスト全国調査を実施しながら、学力補充と現状の点検に努めているところ。 ・本町の課題として「学力」という点が見えている。 ・学力調査の結果を検討して対応策を作るが、それが子どもたちに指導された形となっているとは言えない。教員一人ひとりが自覚するよう意識改革が必要であり、そのための指導が必要。 < 5. 教員の指導力向上～> ・少人数学級実施の良さを町内外にアピールする必要があるが、学力という形で結果を出さなければいけない。 ・優秀なスクールソーシャルワーカーが配置されており、引きこもりの子どもはない。
-------	---

後藤教育長	< 6. 安全・安心で質の高い教育を～> ・現在取り組んでいる二部小学校の耐震改修が終われば、町内学校の耐震化は完了する。また、空調整備も進めているところであり、環境が整備されているのではと考える。 ・他の環境整備となると I C T の関係かと思われる。児童のパソコン更新は完了したので、次はタブレットを整備することになるのではないかという見通しを立てている。計画的に整備を図っていく必要があると考えている。 以上の説明をもって、教育委員・町長からのご意見を伺いたい。
齊下課長	意見等がありますか。
仲倉委員	子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいるが、結果が伴っていない。家庭学習の手引きを配布したが、その活用が不十分。保護者に意識化させることが必要。 学校は学力をつける場所であり、現状はとても満足できるものではない。教師一人ひとりが課題を持って取り組むことが必要。 生活面においていえば、西伯郡内に非行の傾向はない。複数世代の家庭が多いことが要因と感じる。 自分中心に考える人（親、子ども）が増えてきつつある。家庭教育や地域の社会教育の充実を図り、社会全体に目を向けるような形に持っていく必要があると感じる。
伊藤委員長	貧困などを要因とし、家庭に居場所のない子どもが増えていくのでは。そういう子どもたちは今以上に地域で守る必要がある。今週末に地域の文化祭を開催するが、子どもが何人参加してくれるのか不安である。 教員は、自分が受け持った子どもたちの学力が、1 年を通じてどのくらい伸びたのか本気で考える必要がある。
仲倉委員	若い教員が増えるが、良好な人間関係が築けない担任がいるとどうにもならない。 勉強を教える中で「人間担任」として人間を教えていくという意識も必要。これからの教員指導も難しいと感じる。
田中委員	中 1 ギャップという言葉がある。それを防ぐためには小中一貫＋保育所の連携・接続が大切。伯耆町はその面では充実していると感じる。

齊下課長	今のご意見を今後の方向性に盛り込むということによろしいでしょうか？
後藤教育長	はい。
森安町長	学力調査の結果が公表されているので、おそらく今年は弁解の余地はない。 全体の学力が伸びていればいいが、全体が落ちているし、成績の悪い生徒が増えているので、住民からは「何をしているのか」という意見も出る。教育委員会は、来年に向けてどうするのか教育現場から提案させる必要がある。
伊藤委員長	教員は「忙しい」の一点張り。子どもと向き合う時間がとれていないと言うが、その時間を生み出さなければいけない。
森安町長	子どもと向き合う時間を生み出すのは校長、教頭が担うべき。 子どもの学力が上向きになるようにはどうすればいいか、小学校の教員に考えてもらわないと、住民からの信頼をなくすことになる。
後藤教育長	来年度に向けて、学力向上策を各学校で考えてもらうように指導していきたい。 これまで全国学力調査は文科省に送り、採点された結果が返ってくるだけだった。今後は文科省に送る前に学校で自己採点し、そこで出た課題点を授業に活かしてはどうか、と校長会で提案している。現状ではテスト自体が学校の問題となっていない。
仲倉委員	学校の管理職だけが危機感を抱いていても意味がない。
森安町長	問題が読めていないのでは、と感じる。（設問の意図がわかっていないのでは） 全体をレベルアップして、なおかつ学習が難しい子どもにフォローをする、というようなやり方を考えてもらっては。校長先生のマネジメントをしっかりともらいたい。
仲倉委員	文章問題ではその問題を読むのを面倒がる子どもがいるのでは。
後藤教育長	これまでは全国学力調査の答案をただ文科省に送っているだけであり、自分のクラスの子どもたちがどういう点でつまづいているのかは、結果が返ってきて初めて見えるという状況。

後藤教育長	結果が返ってくる学年以外の担任は、全国学力調査を自分のことと捉えていない傾向がある。校長は、学校全体の問題として捉えないと、この問題（学力低下）は解決しない。
森安町長	都市部に比べれば半分程度の人数で学級を編成している。「なぜこの解答をしたか」と聴き取りをするなど、手厚いフォローをしてもいいのでは。
仲倉委員	担任ごとにテストを実施しているが、その結果はどう処理されているのか。実施して終わりなのか。その一つひとつが大切。
後藤教育長	今年度の結果を契機に、これからは上がっていく手立てを考えないといけない。
森安町長	伯耆町は少人数学級で学力向上を進めているが、本来は小学校の（低学年の）時点から（学力向上の）加速がついていくやり方でないと意味がない。現場で改善策を見つけてもらうしかない。
後藤教育長	【社会教育】 文化財 ・多くの出土品を整理し、展示することが必要と感じる。 放課後子ども教室 ・児童クラブと連携し一体型の推進を図っている。一定の成果は得られているので、さらなる連携を進めていきたい。岸本放課後児童クラブが増員されるため、それに対応できるようなプログラムの検討や、指導員の確保をしたい。 読谷村 ・交流の成果を広げ、定着させることが必要。 ・経費負担の見直しを再来年度の交流に向けて検討する。 文化センター改修 ・地域だけではなく、町内の人権文化の拠点としての展開が必要。 社会体育施設 ・長寿命化計画の策定は見送り。 ・岸本体育館は大規模改修の設計中。 ・来年度以降は溝口体育館、海洋センターの改修に取り掛かる予定。 アスリート ・来年度以降のアスリートの人選については県との協議が必要。 ・事業期間については県がまだはっきりさせていない。そのあたりも含めて県と協議を進めていく。

後藤教育長	写真美術館 ・美術館のロケーション、魅力を活かした企画を打って出ることによって入館者を増加させる必要がある。
斉下課長	何かご意見は？
森安町長	重点施策に挙げられているものは現状維持するものである、本当は公民館が一番気になるのでは？目に見えにくい。 生涯学習の分野を進めていきたいという気持ちもあり、正職員を配置しているが、効果が出ていないと感じる。
後藤教育長	・日光、二部は地域協議会も発足し、地域とつながりができていると感じる。 ・二部は若者との連携が生まれ、日光は山隠れの里、環境大学、鳥取大学との連携が生まれている。 ・岸本、溝口の役割が問われると感じる。
田中委員	環境大学の学生は来るが、地元の住民で公民館に来る人が特定されている。
仲倉委員	同じ集落でも人間関係が疎遠になっている。公民館は地域の誰もが行ける場所。児童クラブもいいが、放課後は公民館に行き友達と過ごすような形もいいと思う。そういう形に仕向けていくのも、学校との連携だと思うが。
森安町長	岸本は小学校に近いので比較的にぎわっているが、溝口は場所的に子どもが寄りにくい。 二部、日光は協議会で地域のみなさんとのモデル地区づくりの役割を担うことになる。 岸本、溝口はマンネリ化を感じるころもあるが、切り口が難しいのだろうと思う。 新しくできた日吉津の施設は盛り上がっている。
仲倉委員	土、日も公民館を開いたほうがいいと思う。
森安町長	変則勤務をしてでも土日も開放するような提案が公民館から出ないといけない。
後藤教育長	学校の土曜授業にあわせて、土曜日に子どもを集める体験学習を開催するようになった。これもひとつの成果だと思う。 大人向けの教室を日曜日に開催するなど、平日はなかなかできないけど土日に開催するというのもひとつの考えだと思う。ただ、公民館職員の一步が出ない。

森安町長	公民館が ^{そじょう} 俎上に載る日が来ると思う。
後藤教育長	公民館の必要性を把握したうえで必要な事業を積極的に打っていくような公民館でないと生き残っていけない。
森安町長	地域の課題と向き合うような姿勢でないと、公民館は難しい。
仲倉委員	公民館から課題として地域住民へ発信するようなことも必要では。たとえば子育て講座など。
森安町長	以前よりは前進しているが、問題意識をもって見ていくしかない。これといった切り口の講座が公民館からなかなか出てこない。 自主企画ができないのであれば、企画を委託するのも一つの手段では。
仲倉委員	社教主事のベテランが一人いると
後藤教育長	お年寄り、子どもの確保はできつつあるが、その中間層の確保が課題。目新しい企画出しが必要。
田中委員	若者を集める企画を開催するなら、土日にしないといけない…
森安町長	公民館職員の勤務日を変更すれば実現可能。ただ、抵抗される。
後藤教育長	その点については、来年度の検討事項として考える。
田中委員	文化センターに来るのは地元住民が多く、地区外から来る人が少ない。幅広く集まっていただけるような方向に持っていけたらいいと思う。
後藤教育長	その場で参加者同士の交流が生まれることもある。もっと事業をPRするように考えないといけない。
伊藤委員長	町の施設だけど町の施設ではない、という気持ちがあるのでは。三部の集会所と思っている。
仲倉委員	文化センター祭りの展示品を見ると、岸本地域の子どもの出品があった。良いことなので、少しずつでも広げていくことが大事だと思う。
齊下課長	社会教育関係についてその他には？ → 特になし
齊下課長	「3 その他」について何かあるか？ → 特になし 以上をもちまして、伯耆町総合教育会議を終了します。